

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2396100071		
法人名	株式会社 プラス		
事業所名	グループホームあかり(みよし苑)		
所在地	みよし市打越町山ノ間86-2		
自己評価作成日	令和元年 8月20日	評価結果市町村受理日	令和 2年 3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JivogvoCd=2396100071-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で心身ともに健康維持をしながら多くの楽しみを持ち自分らしく過ごして頂けるよう支援しています。季節行事を大切に四季の移りかわりを感じて頂けるようにイベントを計画し行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者就任から2年目を迎え、ホームの雰囲気にも落ち着きを感じられる。昨年度から目指した「笑顔あふれるホーム」も支援内容が具体化し、今年度は家族も巻き込んだ支援で利用者満足度を上げている。家族との交流を深め、家族と馴染むことで相互の距離を縮め、忌憚なく話し合える信頼関係構築を推進している。利用者の満足は家族の満足であり、利用者と家族の満足は職員満足につながるという管理者の信念は、現在のホームの落ち着きにつながっていることが感じられる。
満足度向上を目標に、ホームの行事毎に反省会を行い、課題点を見出して改善して行くという取り組みが功を奏し、利用者の笑顔や改善への具体的取り組みが職員のやりがいにもなっている。また、職員定着と職員育成に、管理者のやりがいを見出していることから、今後の取り組みが期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時に職員にあかりの理念を伝え、地域密着型サービスの意義も説明している。玄関、事務所に提示しています。会議等でも話し合いをして理念を大切にしています	法人理念として「あなたの笑顔が見たいから・・・」を掲げている。利用者、家族、職員、地域の人々のそれぞれの思いやグループホームのあるべき姿をこの言葉の中に込め、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会には参加していませんが、散歩や買い物に出掛けたり近所の方や地域の方に挨拶や声かけを行い交流をしています。近所の方が野菜を持って来られたり交流を行っています	日課の近隣散歩の途中に畑仕事の人と言葉を交わす場面も多い。野菜を分けていただく機会や利用者が行事で着る着物の寄付を受けることもある。傾聴ボランティアやレクリエーションボランティアの来訪、地域スーパーや飲食店の利用等でも交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院や公共施設に訪問し、施設の特色を説明したり地域の方が気軽に相談や遊びに来て頂けるような声かけを行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や取り組みについて報告し、地域の方や包括の方々から意見を頂きながら意見交換をしています	年6回の会議を開催している。利用者家族、みよし市長寿課、地域包括支援センター、民生委員、地域住民等の参加を得ている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で会議を開催し、多くの参加者と意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者やケアマネが市役所の長寿介護課の窓口にて随時、入居状況やケアにおける困難事例等の報告、相談をしながら質の向上に取り組んでいます	管理者は、市からの要請で認知症サポーター養成講座の講師を引き受け、主に中学校に出向いている。また、老人クラブの会合で、認知症の施設について講義し、高齢者介護と認知症理解を協働している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について勉強会を実施し職員の共有認識を図っています。毎月、身体拘束、虐待防止委員会を開催し接遇マナーの見直しやグレイゾーンについて検討しながらケアに取り組んでいます	身体拘束・虐待防止委員会を設け、毎月の職員会議で委員会を開催している。原則全員参加の会議であることから、正しい理解の周知には問題がなく、現在も事例は無い。言葉の拘束やグレイゾーンとなりそうな行動・言動についても職員は細心の注意を払っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月虐待についての勉強会を実施し虐待行為がないように意識を十分に持ちながら注意を払っています。虐待の疑いがある場合には市、包括等と連携を取り、防止、事後対応できるように体制をとっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を実施し学ぶ機会を作り理解を深めるようにしています。新しく入られた職員はまだ十分ではありませんが随時勉強会を行って行きます		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様やご家族様の不安を軽減できるよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等、納得し同意をして頂けるよう丁寧な説明をしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しています。家族会を開催したり、来苑時にご意見やお話しを伺い反映させて頂いています	家族会を年1回開催し、事業報告を通じて意見交換を行っている。家族参加の多い夏祭り、日頃の面会時等、意見や要望を聞く機会を得ている。本人と家族に直接関わる担当職員の退職や法人内の異動についても丁寧に説明し、運営上の不安を取り除いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、会議を行い、意見交換を行っています。また、日頃から話し合える環境作りを心掛けています	毎月1回、全員参加の職員会議で意見交換をしている。スタッフ会議、勉強会、各委員会においても皆で話し合う機会がある。管理者は意見の言いやすい雰囲気を作り、聞き取った意見を管理者会議で検討し、職員にフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持ちながら、経験を積み、現場で活躍できる環境作りを行っています。都度、職員の悩みや困りごと不安な事を相談できる関係作りを行っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会は多くありませんが事業所外で研修に参加できるよう心掛けています。研修報告は勉強会の場で発表してもらい、全職員に共有出来るよう取り組んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報交換が出来る場に参加するよう心掛けています。質の向上につながるように話合っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、不安な気持ちを理解し、向き合い利用者様の思いを傾聴し本人の希望に添った支援が出来るように心掛けています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、不安な気持ちを理解し、向き合い利用者様に寄り添い信頼関係を深めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	福祉用具の貸与、住居改修の必要性。また他事業所の紹介等適切なサービスの利用を受けれるようにしていきます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「家族」のような関係が築けるよう、必要な買い物に出掛けたり家事を共に支え合って生活が出来る関係づくりをしています。また、尊厳を大切にしたい関係が築けています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族が不安になることなく、安心して生活が送れるよう、話を傾聴し共に支えられるお手伝いをしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や親しい方が自由に面会でき関係を保てるような体制作りに努めています	お正月やお盆には自宅に帰ったり、墓参や法事に出かける利用者もおられる。地域からの利用が多く、利用者同士が知り合いであったり、家族同士が知り合いであったり事例もある。希望があれば、職員と一緒に近隣の馴染みの場所へ出かけることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	登録間もない方には特に職員が関わりを増やし孤立しない様にしています。心身の状態や気分の感情がある方には個別に傾聴したり安心して生活が送れるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関りを必要として下さるご家族様には近況をお聞きし相談を受けています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から思いや希望を聞き何を今、望んでいるか、どのように暮らすことが最良なのかを考え検討しています	利用者と職員が1対1になる機会(入浴やドライブ等の個別対応時)には特に利用者の思いを傾聴している。「出かけたがたい」、「食べたい」、「体験したい」等の希望を聞き出し、可能な限り実現させている。希望実現を介護計画に反映し、継続支援する場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話から生活歴や価値観、地域との関わり等把握し職員全員が情報を把握出来るよう共有しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の様子を観察しながら総合的に把握するよう努め対応して行きます		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様、関係者様との話し合い、意見を出し合いその意見を反映させるよう介護計画を作成しています	基本的に毎月のモニタリングを実施し、6ヶ月毎に介護計画の見直しを行っている。本人と家族の意向重視の支援内容には、地域で生活している意味・意義を踏まえつつ、外出機会を増やし、健康維持増進を盛り込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、個別の介護記録に日々の様子やご利用者様の言葉を詳細に書き情報共有し介護計画の見直しに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の急な要望にも臨機応変に柔軟に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者様が安心して暮らせるよう、地域の方と意見交換や、消防避難訓練を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様やご利用者様の希望を大切にしています。家族受診が難しい時には職員が代行しています	ホーム協力医の内科往診月2回の他、歯科医の往診も支援している。以前からのかかりつけ医や専門医を家族対応で受診している利用者もおられる。急変時に対応できるよう医療連携の体制も整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医や看護師に気軽に相談できる体制が取れています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時は病院へ訪問し環境の変化で認知症が進行しない様声かけし傾聴をしています。病院の医師や看護師から経過説明を受け速やかな退院支援に結びつけています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期なった場合について、ご家族様と話し合いをし、安心し納得した最期が迎えられように取り組んでいます	本人と家族の意向に沿った支援を原則とし、家族が心残りのないように、最善・最良の終末期のあり方を医師と相談しながら検討している。ホームでは、看取りに関する勉強会の実施、家族宿泊用のベッド常備等、最期の時間の過ごし方を大切に考え、具体的に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習や緊急時対応マニュアルを整備し勉強会を行い対応できるように周囲徹底を図っています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の協力を得て年に2回、避難訓練、総合訓練を行っています。終了後勉強会を行い反省点を話し合い改善点について話し合っています	定期的に消防署の協力を得て、訓練を実施している。消防署からは良い評価が出ているが、さらに災害対策への取り組みを充実させたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに尊厳を持ち、誇りやプライバシーを配慮しながら言動に注意しています。個人情報の取り扱いに関しては細心の注意を払って対応しています	職員は利用者の人格を尊重し、一人ひとりが尊厳ある姿を現すことができるように支援している。常に笑顔で接し、職員自身が自分の身に置き換え、自分がされて不快な事は行わない支援実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の指示ではなく、ご利用者様の思いや希望を聞き行っています。時間をかけ傾聴をしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合ではなく利用者様を優先させその方の今の気持ちを大切に過ごしていただけるよう配慮しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お出かけの際服を選んで頂いたりおしゃれが出来るよう声かけを行っています。2ヶ月に1回、訪問理美容が見えます。希望によりパーマやカラーもされています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを相談したり、下ごしらえ、盛り付け等を一緒にし、楽しく食事をして頂けるようにしています	食事は利用者の生活の中で重要な活動として位置づけ、献立、盛り付け、食器、彩り等にも工夫を凝らし、利用者・家族からの評価が高い。外食や喫茶外出等の機会も多く、バラエティーに富んだ食事環境を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を把握し確認しています。摂取量の少ない方、残された方には確認し工夫し提供を行っています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、就寝前の口腔ケアを行い口腔内を清潔にし虫歯や肺炎予防に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をもとに排泄のパターンを把握しトイレ誘導を行っています。トイレの訴えのない方にも声掛けし誘導を行いトイレでの排泄介助を行っています	トイレ排泄を基本に支援している。排泄のタイミングや生活リズムに沿ってトイレ誘導している。羞恥心や不安に配慮し、職員は一人ひとりのサインを見逃さないように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や繊維質を工夫し適度な運動を行い便秘にならないよう工夫しています。便秘の方の排便コントロールが出来るよう取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の希望に配慮し強制はせず楽しく安全に入浴が出来るように1対1にて職員がつき利用者様に配慮しながら介助を行っています	週3回の入浴を基本としているが、個人の希望や体調によって適宜対応している。安全に配慮し、不安や負担感のないよう個別入浴を行っている。お湯もその都度入れ替え、衛生的に入浴支援している。重度化した場合も、併設施設の機械浴で入浴が可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に生活が出来るよう支援し夜間の安眠につなげています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとり責任を持ち服薬介助を行っています。服薬変更時副作用に注意し状態観察、情報共有が出来るようにしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事や楽しみを見つけ、個々の力を発揮され張りのある生活を送り、気分転換に行きたい場所に外出出来るよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたい場所、やりたい事を個々に聞き外食や喫茶に出掛けています。季節に合わせた行事を計画しお花見や、紅葉見学に出掛け気分転換をして頂いています	近隣への散歩は日課になっている。職員の買い物に同行したり、外食や喫茶外出は利用者の楽しみごとになっている。行事外出として、初詣、お花見、紅葉見学等は毎年の恒例行事となっている。また、家族外出を支援し、馴染みの場所外出の実現もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持つことはされていませんが立替の形で必要に応じ買い物等出来る体制にはなっています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご用件に応じて家族様の協力を得たり、電話が出来たり手紙を出せる環境になっています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感ある壁画を作り飾ったり、四季の花をフロアーに飾っています。空調についてはその都度調整が出来るようになっています	ホーム内は落ち着いた色調で統一されている。多くの時間を過ごすリビングは、窓からの採光も良好で、明るい空間となっている。壁面に2台のテレビを設置し、利用者は思い思いの場所でソファーに座り、くつろぐ居場所となっている。レクリエーションで作った季節風景の作品で季節感を演出したり、思い出の写真を掲示したりと、居心地の良い環境整備に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーの配置を変えたことにより利用者様同士の居場所がで談話されている姿が多くみられるようになった		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの家具を持ち込まれたり、家族の写真を飾られたり少しでも自宅にいるような気持ちで穏やかに過ごして頂けるようにしています	居室には家族の写真や好みの置物を飾り、思い思いにアレンジしている。職員は利用者が快適に過ごせるように、清潔保持や環境整備に配慮し、掃除や整理整頓等、利用者のできないことを手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要以上に手すりはつけておらず、自分の力を活かして自立した生活が送れるように安全を確保しながら自立への支援をしています		